

総括

行政座談会



町政全般について

要望 合併により、地区ごとと同様な施設もあれば、地区によっては無い施設もある。町は「均衡ある発展」を掲げ整備を進める方針と受け止めているが、ムダな施設を増やす必要はない。新たな事業展開は理解するが、効果の薄い古い事業等は縮小すべき。経費節減に努めてもらいたい。

回答 ご指摘のとおりで、これまでの施設整備の状況等を踏まえつつ、徹底した経費の節減努力も重要であるが、各地区間のバランスに留意しながらの行政も現段階では必要と考えている。また、既存施設の統廃合による機能充実、効率性向上、町負担の軽減を実現することも重要である。来年度、六郷給食センターを廃止することも、行政改革の必要な一歩であるご理解を願いたい。

質問 合併して、行政サービスが悪くなったという不満にできる限りの説明をお願いしたい。

今年度の行政座談会が、6月14日から30日まで町内15会場で開催され、延べ259人の町民の皆さんが参加しました。今回の行政座談会は、平成18年度のまちづくりについて説明するとともに、行政区再編や来年度に開催される国民体育大会に向けた取り組み、本町が今後取り組む必要がある課題などについて、町民の皆さんのご意見やご要望をお聞きして、今後のまちづくりの反映させようとお開かれしました。今月号では、各会場で出された主なご質問やご要望に対する回答を皆さんにお知らせします。

回答 合併の有無よりも、近年の地方交付税を始めとした三位一体改革によって地方の財源が大きく削減された影響が最も大きい。今後も公共事業等を厳選し、財源の重点配分を行っていくが、地域住民の理解を得るため、折りに触れて説明していきたい。

質問 今の生活を維持していくための合併か、補助金を減らし住民の負担を増やすための合併か。

回答 県内のほとんどの自治体が合併しており、地方交付税交付金も減らされるのではないかと。合併しなかった場合、これまでの行政サービスが維持できたであろうか。町予算の半分近くが地方交付税交付金であり、それが減らされてきている。

合併したほうが有利ではあるが、有利なところでもこのような状況である。この先、財政的な合併の効果を早くあげたい。人件費の圧縮や施設の維持管理を効率化する。緊急性のある事業を優先し、財源を見出していくが、1〜2年では難しい。効果が目に見え

るには一定の年数が必要である。医療制度改革、年金改革、農政改革など今までと同じ社会環境ではない。

行政区再編について

質問 なぜ行政区の再編が必要なのか。理想とする戸数は何戸くらいか。

また、六郷地区の上罐田行政区が170戸あるが、分割ということはあるか。

回答 少子高齢化の進展から、地域活動の低迷が憂慮されるため、活発化するよう勧めるものである。戸数は地域の自主性による任意。統合が主眼なので、分割は考えていない。

質問 現在の最大の行政区はどれくらいの規模か。再編後の1行政区の戸数の目安はどれくらいと考えているか。

行政区には地理的な要件もある。住宅が集合している地域と、散在している地域とは別ではないか。

回答 各地区の最大行政区の戸数は、千畑地区150戸、六郷地区17

7戸、仙南地区116戸です。目安となる戸数を示すことは、それぞれの行政区の地理的な条件もあり難しい。基本的には皆さんの意見を反映して、自主的に再編できればよいが、難しいところもある。役場の方から足を運んで意見を交換して進めていかなければならないと思っている。

千畑地区の投票所統廃合について

質問 千畑町の時に、投票所の整備改修を行った。公費を投入した箇所もあるが、投票所の統廃合はそういったことを十分検討してのことか。

回答 投票所の統廃合については、十分検討したものであり、ご理解いただきたい。

環境問題について

質問 水質保全に対する町の取り組みについて教えてほしい。

回答 地下水や河川などの水質検査をして水質を監視している。

また、山やその麓などへの不法投棄を監視しているのも水質保全の一つの取り組みである。

土地改良区も農業用水としての湧水を守っている。農地・水・環境保全向上対策というのは、水質保全とは別で、農業の持っている多面的な機能を維持していくこうとするものです。

子どもの安全確保について

質問 畑屋外川原地域では、通学等において非住家地帯があり、就学児童の安全対策に苦慮している。そのため、そのような地域に「子ども見守り隊巡回中」等の立看板を設置できないか。また、子ども達が危険を感じた際に、近隣の家に駆け込めるように協力要請してもらえないか。

回答 「女性、子ども110番」に協力してくださる家庭を再調査中で、その中での対応を検討中。

質問 通学路に横断歩道がなく、児童の登下校時は交通量も多く大変危険である。該当する通学路は3箇所ほど横断歩道を設置することで安全になると思うが。

回答 危険な場所を教えてください、き、県公安委員会へ相談する。

温泉施設の利用について

要望 町が65歳以上の町民に交付している「千畑保養所無料利用券」を、町内すべての温泉施設で使えるようにしてほしい。

回答 旧千畑町で実施していた事業を、利用施設を保養所に限定して全町に拡大した。全町施設への拡大についての要望が多いことは理解している。しかし、限られた財政の中でこれ以上のサービス拡大を図ることは、財政的な負担が確実に大きくなる。必要な施策を実施していくためには、我慢できないことは我慢していかなければなら

い。高齢者福祉に係る経費は、行政の予算全体が縮小している中で、介護保険の負担などで増加している。高齢者福祉にだけ重点を置くと少子化対策や農業、教育など他の施策の実施に支障が出る恐れもある。どうしても必要な事業と、便利な事業とは区別して考えなければならぬことをご理解願いたい。

農業について

質問 経営安定対策の対象品目について、19年度からの対策では、大豆が重点作物となっているが、それ以外の飼料作物などは対象にならないのか。

回答 生産調整に関する補助金制度は19年度からも継続される。大きくは従前と変わらない。品目横断的経営安定化対策による所得補償は、認定農業者、集落営農および法人に対し所得補償する制度です。一般農家への稲特による補てんなどは継続されますので、来年から一般の農家への支援が全て無くなるのではない。

質問 集落営農の進み具合を教えてください。集落営農の組織化は難しいのでは。

回答 大仙市、仙北市、美郷町の中では本町が最も話し合いが進んでおり、続いて大仙市、仙北市の順となっている。ことしの5月末までに説明会を167回開催し、2,218人に参加していただいている。現在は実施に

向けて話し合いを進めている地域が30以上ある。農地の整備状況や経営規模、地域の状況により認定農家で取り組む地域と集落営農で取り組む地域に分かれているが、次年度以降に向け話し合いもされている。

質問 本堂地区のほ場整備は、町から協力をいただき採択されたことについてお礼を申し上げたい。農地・水・環境保全向上対策について、ほ場整備地域は対象にならないと聞いているが。

回答 農地・水・環境保全向上対策であるが、これは19年度からの事業である。現段階では途中での変更はできないと言われている。したがって19年度に面工事を実施する箇所は保全活動ができないので実施は難しい。

しかし、国の制度が定まっていないので機会のある毎に対象とするよう要望する。

質問 堆肥センターで作られる予定の堆肥の内容は。作物への使用状況と価格はどの程度になるか。また、ほ場への散布はどうするのか。

回答 牛糞90%、豚糞10%程度で、他には鶏糞と籾殻が入ります。成分内容は公表する予定で、土壌改良剤という位置付けです。

北海道で実際に稼働しているプラントを、農家の方々と視察している。農家の方々によると良い堆肥とのことであった。現段階の試算では1トン当たり3,500円程度です。堆肥散布機

械を購入する予定であり、必要な方に対して散布を請け負う制度を考えていきたい。

質問 農地・水・環境保全向上対策は、一部の集落を対象としているのか。また、他地区の出入作については、管理が行き届かなくて苦慮している。

回答 この対策については、品目横断的対策と両輪をなす事業であり、活動指針では効果の高い取り組みに相当する活動を行う地区に支援することとなっている。そのため、町では3つのガイドラインを示してアンケートを実施した。各地域の前向きな取り組みを期待するものである。

観光について

要望 美郷町には多くの観光資源があるが、その資源を有効に活用するため、観光客に観光バスで町内を巡ってもらったらどうか。

また、駐車場を有料にするなど、町に経済的効果が残ることを実施してほしい。

回答 農業・商業・工業の連携の延長線上には物産や観光等があり、そういったものを想定しての連携が必要である。

町では観光プランを策定する予定で、その段階で提案の内容を検討したい。

地産地消について

要望 私は非農家であるが、美郷町として米以外の農産物で売り込めるものが希薄と思える。もっと地域発信が必要ではないか。

また、地産地消推進については、商工観光課だけで達成できるものではないと思う。

回答 町内消費購買率を高めるため地産地消について条理化し、商業者・消費者等の立場からのご意見やご協力を得て、事業推進等（農商工連携）取り組みを行う。その中で既存商品の価値を高め、また新たな商品が創造されることにも期待している。

企画課では大田区等との都市交流を拡大し、美郷町の情報発信や物販を含む売り込みを展開していく。役場内でも関係課での調整を行いながら取り組むことになる。

キーワード

地産地消と地産地消

地産地消は「地元生産・地元消費を略した言葉で、「その土地で生産されたものをその土地で消費すること。消費者の食に対する安心・安全への関心の高まりに対して、その土地の食材や食文化への理解や、消費者と生産者との相互理解を深める仕組みとして期待されている。

また、地産地消は地産地消の考え方を農産物以外の商品にも当てはめた考え方で、「地元販売・地元消費」の略。地元商店街等での買い物物を促進することにより、地域経済の活性化を目指す

仕組み。

質問 千畑・六郷地区の農家の「道の駅まごころハウス」への参入は難しいと聞いているが。

回答 既に組合員になっている農家もいるが、スペース等での制約はある。また近日、町内13の直売所の連絡協議会を設置する予定である。

また、昨年度に道の駅でテント村「風の物産フェア」を実施した。六郷市場通り商店街有志の販促活動を支援したが、参加者の反応がよかった。

食育について

要望 食育は学校ではなく家庭が大切だと思ふ。

回答 ご指摘のとおりで、食育は家庭と学校との連携が不可欠。保護者に対する講演会や子どもと親との調理講習会を行うなど、食育の推進を図りたい。

秋田わか杉国体について

質問 国体の選手らを歓迎するための花の植栽について、町が数量などですでに決めていなければならぬのではないか。花を飾るにしても苗の準備は今年中に手配しなければならぬ。

また、ボランティアの話だが、体育協会が果たす役割が一番大きいと思う。もっと体育協会と連携を取るべきだ。国体で来町する選手と役員は何人

か。

回答 花の植栽については、国体間に合うように町内をお願いしていく。体育協会とも協力関係をとっていく。

バドミントン競技で450人、自転車競技で650人ほどの選手と役員が来町する。町内会へのお願等は早いほどいいと思っている。また宿泊についてバドミントン競技は民泊、自転車競技について県による合同配宿で対応する。

質問

国体の自転車競技の立哨員は確保できているか。昨年の総体開催時もそうだったが、特に高齢者などは注意してもコースに入ってくることもあり危険なので、競技時にコースに入らないよう徹底してほしい。沿線の住民も同じ。

回答 一般765人、指導隊・警備員100人、計865人を確保している。コース沿線の住民も認識が必要であるので、広報やチラシで内容をお知らせしたい。

質問

国体開催まで必要なボランティアが半分しか確保できていないが、開催まで間に合うのか。

回答 現在、各集落で国体の説明会を開催中で、ボランティアへの応募をお願いしている。民泊は昨年11月のアンケート数より現在の申込者が少ないので個々に訪問してお願いしたい。

質問 国体の民泊について、条件はあるのか。寝具等かなりの数量とと思うが、リース等で対応できるのか。

回答 宿泊には、1チームにつき監督1名1部屋選手3名1部屋の計2部屋が必要となるが、チームの監督、選手が別れて別々の家に宿泊することもできるので、最低1部屋あれば可能である。寝具等のリースは国体等用に全国規模の業者もおり大丈夫である。希望があれば、あっせんも行う。

学校教育について

質問 子どもの数が減って、中学校に入学しても希望する部活動ができなくなるかもしれない。学校の統合など、長期的にはどう考えているか。

回答 子どもにとってどのような環境がプラスかは町としても考えている。学校規模を考えたときに1学年に最低2クラス以上あるのが望ましいだろうという考え方を持っている。今後は、統合について地域の皆さんと話し合いをする時期が来ると思う。

学校では、特色ある取り組み、学力も含め水準を上げていく。子ども達がいかに美郷町に愛着を持つことができれば、子ども達に楽しい記憶を持たせることが、将来の定住につながる。行政だけでなく保護者と地域が一体にならないといけないと考える。

質問

六郷の給食センターが廃止さ

れると聞いている。そうなると週5日間とも米食になるという話があるが。

回答 給食センターにはドライシステムとウエットシステムの二つがあり、衛生上はドライシステムがよいとされている。六郷給食センターはウエットシステムで、年数もたつており老朽化していることから廃止することにした。給食方式には弁当方式と食缶方式があるが提供の方式によって米食にならないを得ないこともある。町では「食育」ということで、地産地消を推進している。日にちを定め、できる限り美郷産のものを食材に使った「まるごと美郷給食」なども実施している。

キーワード

給食センターのドライシステム化

これまでの給食センターの多くは「ウエットシステム」と呼ばれる方式の施設で、食材の洗浄などに使用した水をそのまま床に流していました。このため、水で濡れた床が雑菌の繁殖の原因になるなど衛生面で懸念がありました。これに対して「ドライシステム」は、一般家庭のように排水が床下に流される仕組みで、ウエットシステムよりも衛生面を格段に向上させることができます。

その他

質問 道路の路肩の草刈りに差があるように見える。

回答 町道の主要路線であれば町で管理している部分もある。直営もしくは委託等で行っているが、地域により差があり様には難しい。道路全部を町で管理することは経費的に難しい。これまでどおり地域と町とで役割分担が必要であり、地域づくり交付金を行政区に交付する予定なので活用してほしい。

要望 ボランティアの体制作りについて、少数単位での取り組みができる体制作りをしたら、もっと活動しやすいのではないかと。

回答 地域の声や要望が伝わりやすく、また、適切に応えられるボランティアを中心とした体制づくりを現在検討している。

要望 座談会の設営、方式を検討したらどうか。説明会ではなく座談会という認識。説明資料テーマがあるなら事前に周知してほしい。

回答 来年度の実施に反映していきたい。

要望 学校の空き教室の開放について、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加している。日中ほとんど会話なく暮らしている高齢者のために、少子化で空いた学校の空き教室を開放できないか。

回答 最近では国もかなり柔軟になってきているが、それ相当の手続きが必要になる。

空き店舗や空き家を利用した高齢者サロンの計画が社会福祉協議会にある。

要望 美郷町は大仙市と横手市の間に位置し、条件と環境さえ良ければ定住したいと考えている人もいると思う。土地開発公社などで宅地を分譲するようにしても良いのではないかと。

回答 税金、土地の価格面では美郷町が良いのは分かる。土地開発公社等の宅地分譲では、売却できない土地もあると聞いているので難しい。美郷町では定住促進のため空き地・空き家の情報提供を行っている。また、民間業者による宅地分譲が行われるような行政の支援を考えていく。

